



の知見をこのまま内向きにしておくのは勿体ない、  
なんとか次の世代に伝えられないかということが今  
回の連載の発端です。次の世代に伝えるべきメッ  
セージを持った方が多く居られるのですから、この  
対談を通じて発信し、ネットのブログなどを通して、  
『ほほづゑ』そのものの存在を、広く次の世代の人達  
に知ってもらえる、その礎にこの対談がなればと期

さて、新対談の第一回にご登場いただいた奥谷禮  
子さんのメッセージをお伺いしたいと思います。私  
の手許にある、奥谷さんの多くのご著書の内から幾  
つか拝見して来ましたが、例えば『うまくいく人は  
筋がいい』（亜紀書房 二〇〇八年）というご本の、筋  
がいい」というのは、どういうことと理解すればい  
いのでしょうか。  
奥谷 儒教の徳目に、仁義」という言葉があります。



新連載 博聞意伝 世代を超えて未来を語る ①

第1回 [聞き手]

奥谷 禮子 — 澁澤 健

(ザ・アール社長)

(日本国際交流センター理事長)

次代へのメッセージを発信

澁澤 奥村有敬さんの「寿者歓話」の後をうけて、  
『ほほづゑ』の新しい連載対談の「博聞意伝」を担当  
いたします。私が常々思っていたことなのですが、  
『ほほづゑ』の同人として集まって来られている方々

待っています。

奥谷 たしかに、『ほほづゑ』を年配の方にお配りす  
ると喜んで読んで貰えるのですが、若い人たちには  
どうなんでしょうか。……ちよつとむずかしいとい  
う反応ですかね。

澁澤 その「むずかしい」と言っておられる世代に、  
この対談を通じて、なんとかメッセージが伝わるよ  
うにしなければなりませんね。『ほほづゑ』の同人も、  
今度入会された岩瀬大輔さんのように、三十代半ば  
の若い世代の方も加わりました。

**澁澤** なるほど、相手の立場に立つてということですか。さらに「サービスの作法 感性を育てる66話」(郵研社 二〇〇六年)というご本がありますね。こちらにも、そうした相手の立場を考えてということでしょうか。

**奥谷** シサービスの作法」と書きましたが、つまり「作法」というものは形にしてあらわすものと言いますか、「私はあなたを尊敬しています」と言っても形になって表さないと伝わりませんね。幾ら気持ちで「思っています、思っています」と言っても、言葉がぞんざいであったり、態度がぞんざいであったり、相手を尊敬しているということにはなりません。そして「作法」というのは、言葉の表現が新しくはありませんが、形がなければうまく伝わっていきませんね。

**澁澤** シサービス」というのは、日本語では難しいと思うのは、サービス」と言うのと、ただで付きます」というふうには伝わってしまいます。だから

奥谷 禮子著書一覧 (抄出)	『ワーキングウーマンのマナー術』 永岡書店 1994年
『女を読む・動かす・拓く』 大和出版 1986年	『ポジティブになれる人ほど 幸福に近づける』 亜紀書房 2000年
『スチュワーデスになれる本 —ヤル気を生かす最良の本』 大和出版 1987年	『日航スチュワーデス—魅力の礼儀作法』 亜紀書房 2003年
『できる女は器量が光る』 サンマーク出版 1987年	『如是我聞—私のささやかな戦記』 亜紀書房 2003年
『もっと女性力が引き出せる本』 大和出版 1989年	『成功する人は「気配り」上手』 日本文芸社 2005年
『男たちよ、そろそろお休みなさい』 大和出版 1990年	『サービスの作法 感性を育てる66話』 郵研社 2006年
『女が会社をつくる時 —20代・30代を「自分のもの」にする』 大和出版 1991年	『うまくいく人は筋がいい』 亜紀書房 2008年

日本では「サービス産業」というものがなかなか発展しないという事情があります。

奥谷さんが言われる「サービス」というのはどのようなものですか。

**奥谷** 付加価値ということですね。ただで貰えるサービスもあるでしょうが、付加価値の高いサービスは、きちんとお金を払って提供して貰わなければいけません。欧米を旅行してチップを払うのもいい。サービスをして貰うことへの謝礼ですね。日本ではチップの習慣がないでしょう。昔は心づけ」というのがありました。

**日本文化が培った「形式美」**

**澁澤** 今日本は自信を無くして、方向性を見失ってしまっていますね。こういう状況の中で、世界の中の日本の付加価値というのは、どういふところにあると思われませんか。

**奥谷** 私はやはり技術だと思えます。サイエンス(学

人の踏み行すべき道」とでも言いますか、そうしたことをきちんとわきまえている人、ということですね。要するに、「筋」という言葉は「仁義」ということです。恩義、義理、人情というものをわきまえている。相手に対する礼節、思いやりということですね。

いくら世の中が進んで、インターネット至上の社会になったとしても、そうした基本的なことが出来ている人が成長しています。

**澁澤** 「仁」とはシンプルだけど面白い言葉ですね。人偏に二人とあって、人と親しむ、人をいつくしむ、ということでしょうか。…意味が深いですね。

**奥谷** そう、「仁」は人と親しむ、「義」は正しい筋道。つまり人としての基本なのだと思います。人としての基本というのは、相手に対する思いやりも含めて、相手に対する儀礼、自分以外の人に対しての、思いやりであったり、礼節であったり、そうしたものが「仁義」だと思えます。



問・科学)というかな。「二位じゃあ駄目なの?」と仰った大臣がいましたが、二位じゃあ駄目ですよ、やはりナンバー1を目指さないと。

特に資源も無い、人口も減少してゆく、という状況のなかでは、付加価値の高い技術をどのように世界に売ってゆくか、ということとしかないと考えます。  
**澁澤** ある証券アナリストと話をしている、彼が嘆くの中には、過去数年間、韓国の電機メーカーが設備

ありました。

**奥谷** ♪アメリカから学ぶことはもうない♪ということとで、『ジャパン・アズ・ナンバーワン (Japan as Number One)』(エズラ・ヴォーゲル著 一九七九年)という本が出たくらいですからね。やはり、ああした驕りが日本を衰退させたのじゃないでしょうか。  
**澁澤** そして今は自信を喪失してしまっている。……そこで、次世代に残すべきメッセージを、というのがこの対談の目的ですが、われわれ現役の世代が、何を次に残すべきだと思われませんか。

**奥谷** 私は、日本文化だと思えます。お能や歌舞伎とか、あるいは茶道とか、海外からすると♪よく解らない♪という彼らの理解の奥にある、日本の歴史と伝統のなかで培われた、形として完成されているものこそ、誇りを持って継いでゆく、教えてゆくべきだと思います。

**澁澤** ただ、茶道にしても習う人が少なくなっているという昨今、どのように伝統を教えてゆけばいい

投資をするのに対して、日本メーカーは設備投資をしなかった。そして気がついたら、彼我の差が大きくなってしまった。そこらあたりの経営判断どうしてそういうことになってしまったのでしょうか。

**奥谷** やはり先を見る目ということじゃあないでしょうか。目先のことで儲かるからといって、先を見ることをしなかった、ということでしょうか。やはり、ナンバー1になってしまおうと、次が追いつき追い越してゆくという感覚を持たなくなるのでしようね。だから、これでいいやというところで止まってしまう。……これでいいなんてことは無い筈ですから、今ここにある危機、じゃあないけれど、常に危機感をもっていないといけないということでしょうね。安心なんてことは絶対ありえませんか。

**澁澤** 一九八〇年代の日本が元気な時に、アメリカ人の視察団に、君たちは四半期しか見てないが、日本は長期的に見ていると主張する経営者を目にしたことが、今から考えるとやや驕りに近いところが

のでしょう。

**奥谷** 堅苦しく大上段に構えて、どうだ、こうだ、といつてしまうとみんな引いてしまうので、お作法というよりは、あなたが美しくなるためには……とか、あなたがより素敵に見えるためには……という入り方をすればよいのではないのでしょうか。最初から「伝統文化」云々としてしまうと、むずかしいと思われてしまいますね。

**澁澤** そうですね。お知り合いの茶道の家元から、手首の角度をこのようにすると美しく見えますと教えてもらった時に、形の大切さを感じました。  
**奥谷** 形というのは実に大事だと思いますね。それも、あなたのこの動作を、この様にすると格好良くなりますというところから入って行って、その過程で「伝統の形」を伝えてゆくということでしょうね。

**澁澤** なるほど。日本人は「形」というか、ハウツー的なものが好きですよ。形だけやればなん



とか出来てしまう、というような。……でもそれは、上っ面ばかりで中身が希薄な感じがしますが。

**奥谷** だけど最初は、「形」から教えて行かないと、中身まで辿り着かないんですよ。「なぜお辞儀をきちつとしなければならぬのか」「なぜ手をきちつと合わせなければいけないのか」……そうした「形」をきちつと教えることによって、周りとの和をはかり、手を前にきちつと置くことによって、周りに迷惑をかけないというように、「形」を教えて、そして理屈を教えてゆく、ということですね。茶道などは特にそうなのですが、後片づけを厳しく言います。次に使う人がすぐ使えるようにということですね。ですから、お茶を点てる以上に、後片づけを厳しく言いますね。茶道は特に、自分以外の人のことを考えられるかどうかという、いわば「ゆとり」ですね。

**澁澤** なぜそうした「ゆとり」を失くすようなこと

我々はいるといふことなのでしょうね。

**澁澤** 日本の歴史観というのを考えてみると、普通の日本人に「ゆとり」があったという時代はあったんですかね。

**奥谷** 明治・大正の日本人にはあったのではないですかね。私の母は大正生まれで、話しを聞くと、大正ロマンじゃあないけれども、言っていることが夢のようなものですからね。例えば、常磐津のお稽古

とになったのでしょうかね。

**奥谷** 「バブルの崩壊（一九八九年）」でしようね。みんな「大変だ」「大変だ」とシユリンク（萎縮）してしまった。萎縮することによって、別の健全な部分もあるのに、事態の転換を忘れてしまった、ということでしょうね。経済的な、お金の部分が萎縮してしまったので、気持ちも萎縮してしまっただけでしょうね。

**澁澤** 先週、北京に行って来たのですが、泊ったホテルが六十三階にロビーがあり、真っ白で外が何も見えないんですよ、スモッグで。それで日本に帰って来ると、東京は割合ときれいな環境なんです。それで、今、ゆとりがないのにきれいな環境に住んでいる日本人というのは、不思議ですよ。

**奥谷** だから、「水と空気と安全は当たり前」と思っている日本人の感覚が、今の北京に行くのと分るんではないか。「生活環境がいかに大変か」「交通渋滞がいかに大変か」……。まだそれだけ安全なところに

に通っていたとか、お茶を習っていたとか毎日色々なお稽古をして、あとはお芝居を観に行ったりとか、着物を着て髪を結って、毎日が、いわば伝統文化の中で暮らしているようなもので、いい時代があったんだなあと思いますものね。

**澁澤** 私の祖父の祖父、澁澤栄一が遺した言葉などを読んでみると、結構大正時代のことを嘆いているんですね。明治維新の頃にはリスクを冒しているに過ぎないか、このままだったら次は悔やむような時代が来る、と言っていたら昭和初期の悲劇が訪れました。「ゆとり」にも「良いゆとり」と「悪いゆとり」があるのではないのでしょうかね。今の日本には、「良いゆとり」も「悪いゆとり」もないようですよ。

**奥谷** 「ゆとり」がありませんね。「良いゆとり」も「悪いゆとり」もないんじゃないですか。

**澁澤** そもそも「ゆとり」とは何処から来るのです

かね。与えられるものなのか、それとも自分で見つけ出すものなのか。

**奥谷** 自分でつくり出すものでしょうね。忙しい方でも、ご自分の世界をもっていたり、詩を書いたり、特に『ほほづゑ』に書いていらっしやる方々は、それぞれお忙しいお仕事を持っておられるのに、ご自分でご自分の精神状態をコントロール、ギアチェンジ出来ておられるということ、ゆとり」というものは、決して人から与えられることではないのでしょうか。

**澁澤** そういう意味では、「己」がなないと「ゆとり」はあり得ませんよね。ゆとりがないということは、夢を失った日本人ということになりますか。

**奥谷** 私が一番痛感するのは、自己責任がないということ、今の日本人は。すべて他人のせい、社会のせい。政治が悪い、社会が悪い、他人が悪い……今、生活保護受給者が二百何十万人、昭和二十六年頃のレベルになってしまったといえます。

「消費税反対」という大きい声も上がらないし、「賛成」という声も出ない。結局人任せなんです。……結局、消費税が上がるといことはどういうことかということ、誰も真剣に考えていない。

**澁澤** 日本の災害による弊害は、エラーゼロ（エラーをしないこと）ではないかと私は思っていて、エラー（リスク）があるという前提で、やってはいけないから頑張る、というのには健全だと思いののですが、エラーがあることを前提に出来ない、じゃあ何にもやらない方がいい、ということになってしましますね。

**奥谷** だから原発反対もそうなんです。原発を全部止める」というのは、一見美しく聞こえますが、日本のように資源が無い、自然再生エネルギーといってもまだ数十年は掛かるという状態では、ある程度原発を動かさない限りは、日本の経済を含めて成り立たないんですよ。でも、「原発反対！」と叫んでいる方が正義のような風潮というのは、マスコミの過

全部世の中が悪いということになってしまった。昔は、人様やお上の世話になりたくない」というプライドがありましたよ。

### 夫婦共稼ぎを制度化すべし

**澁澤** 今騒がれている消費税のお話に移りますが、最初導入された時（一九八九年）すごく大騒ぎしましたが、今回はマスコミの論調を含めて、国民のある程度の理解はあると感じます。それは、ゼロから5%になるのと、5%から10%になるのとの違いかもしませんが、国民的な意識としてどうなのでしょう。増税を背負わなければなるまい、ということなのか、何も考えてなくて課税許容ということなのか、**奥谷** 私は、基本的に何も考えてないと思います。財政改革に必要なとか、国債が暴落しそうだから言っても、消費増税で十兆円くらい上げても何の解決にもならないんですよ。それでも無抵抗になっているんですよ。騒いでるのはマスコミだけ。だから、

剩反応だと思えます。

そして、そういう議論を真正面からやらなくなってしまうんです。経済界でも同様で、良いか、悪いか」という議論を、丁々発止やる場がなくなってしまうね。まあまあ、こころでシャンシャン」というふうだね。本音を言わないで。

**澁澤** 奥谷さんが首相だったら、どうします？

**奥谷** 私が首相だったら、何でもやります。（笑）

**澁澤** 奥谷禮子さんが日本初の、女性の首相になりました。まず、一番初めに何をやります？

**奥谷** 一番初めにね、まず夫婦共稼ぎ、ダブル・インカムを制度化すること。そうすると夫婦ダブルで税金が入って来るでしょう。まず、女性がちゃんと働ける環境をつくることですね。そして、しっかり子供も産んでもらって、ピラミッド型の人口構成を築くこと。

**澁澤** 奥谷さんに一票入れます。（笑）

私の家の場合もそうですが、キャリア（熟練した

職業経験)を持った女性でも、子供が生まれて家庭に入ると、社会との繋がりが切れてしまいます。挙句マグループとの微妙な世界……、ということになってしまいます。

**奥谷** 現在の労働状況にしても、外国人を入れるのか、どうするのかといっても、結論までにはまだ時間が掛かるでしょうね。それならば、女性を活用するという方向に持って行くべきですよ。半分は女性なのだから。

**澁澤** 奥谷さんは女性の経営者としてのモデルケースですが、なぜ女性の社会進出が増えないのですか。  
**奥谷** やっぱり、女性に社会性がないということでしょうね。ボーヴォワールが言ったように、女は女として作られる」という摺り込みなんです。だから、「あなたはいい人と結婚して、いい母親になるんですよ」と言われて育つ。だからお受験なんかに必死になるというのもそういうことで、社会に出て個人として生きてゆくということが出来ないんです。

**澁澤** 「責任を取る」ということで言うと、日本において責任を取るというのを「腹を切る」という言い方をしますね。

**奥谷** まあ武士道の流れというか、最後は自分で責任を取るといふことなのでしょうが、それがあるか、怖いから余計に、取えて「なあなあ」になってしまうのでしょうか。

営業マンから杉並区立中学の校長をされた藤原和博さんが言われるには、「校長がしっかりとすると学校の中はすっかり変わる」と。会社と同じですよ。社長がしっかりとすると、会社の中が全部変わる、ということですね。

**澁澤** そうですね、企業と全く同じことが言えますね。トップが変わると全体が一挙に変わるというのは何でしょうね。

**奥谷** 自己保身というのかなあ……。それと、日本の雇用の状況は、流動性が無いということですね。ここで頸切られても他にに行けるんだという自信が

社会に出て、個人の名前で稼いで、誰かの妻というのではなくて、個人として生きてゆく、世の中に立つて行く、という摺り込みがなされてないんですね。

**澁澤** それは、親からの教育ということですか。

**奥谷** 親からですな。

**澁澤** では、次の世代へのメッセージとして、女の子がいるとして、親の立場としてどのような文言を発しますか。

**奥谷** 自立しなさい。自立して生きて行きなさい。子供を抱えて一人になっても、一人でいきてゆく力をつけなさい。子供を大学にやれるくらい稼ぎなさい。私はいつも、当社の女性社員にはそう言っています。

**澁澤** 奥谷さんご自身、ご両親からそういう教育を受けられたのですか。

**奥谷** 私の親からは、「好きなことをやっていい、何を言ってもいい。その代り全部自分で責任を取りなさい」と言われて育ちましたね。

あれば、いつでも俺の頸切ってみろ」という開き直りが出来て、議論も出来るのですが、「ここしかない。ここで一生終わるんだ」と思うと、何も言えなくなってしまう。

だから、雇用の流動性をもっと活発になれば、日本の社会が活性化すると思うのですが。

**澁澤** 終身雇用というのは、戦後の高度成長期にもたらされたものではな。

**奥谷** 高度成長期の折は、工業化社会の真っただ中、例えば高能力の熟練者を抱え込まなければならぬ。十年より二十年、三十年とあなたを守りますよという、熟練者を抱え込むために採られた雇用形態ですね。だから、ここにいと安心だよ。給料も上がっていくし、退職金も貰える」という、企業一家が出来るようになったのでしょうか。

**澁澤** その点、金融業界というのは少し状況が違いますね。外資が入って来たり。統合合併があつたり、人的流動も結構ありますね。

**奥谷** 金融業界はそうなんだけれど、特に自動車など、独自の守るべき技術を持っている生産業は、人的流動はまだまだ活発ではないでしょうね。

### 国も個人も胸襟を開いて 広く海外から学べ

**澁澤** この対談の主たる眼目である、次の世代へのメッセージとしては、広く海外からも学べ、ということになりますか。

海外に留学した自分の経験からしても、日本という社会の枠から出て、外から見つめ直すということは、違った視点が見えて、大変重要だと思いますが。

**奥谷** ハーバードとか海外の高い知識から学ぶのはいいのだけれど、先程も申し上げたように、日本のいい伝統をわきまえた上で、そうした外の高い技術、知識を吸収して欲しいと思いますね。

つまり、古いことも知っている私たち世代が、これからの、今までと違った日本人をつくる、努力を

だ、その貴重な資源を無駄遣いしているの、勿体ないと思います。

**奥谷** 非常に勿体ないですよ。大学を出たての若い人たちが、先程の女性のキャリアを含めて、みんなが混ざり合って、会社なり組織を作り上げてゆくというのを試みて、努力し合っていないと、今後生き残れないと思いますよ。

**澁澤** 奥谷さんのところでは、どういう新人教育をされるのですか。

**奥谷** 職場の現場で教育していきます。

**澁澤** 仮に十人として、どのくらいスタッフとして残りますか。

**奥谷** 十人中二人くらいですかね。

**澁澤** やはり、それぐらいになりますか。  
**奥谷** ともかく、日本には人的資源しか無いんですからね。国策としても、その貴重な人的資源をきちっと教育して、世界中に振り向けて、日本の将来を築くことをしないとイケないと思いますよ。

していかないとイケないと思いますよ。発想を自由にして、思ったことはどんどん言え、と。……これは今の七十代以上の人に言っても駄目なんですからね。

**澁澤** 今の若者は駄目だ、と言うのが一般的になっていますが、少なくとも私の周辺に来る若い人たちは、すごく優秀なんです。目をキラキラさせていて。……問題はそうした人たちが、社会に出た時に彼らを活用出来るような、社会システムになっているかというところ、どうでしょうね。

**奥谷** 確かに。優秀な若い人たちは多くいて、これなら日本もまんざら捨てたものじゃあないな、と思うのだけれど、組織に入るとどうなるのか、企業に入るとどうなってしまうのか、折角いいものを持っているけど、全部摘まれてしまうんじゃないだろうか、という危惧はありますね。

**澁澤** 日本は資源が無い国といわれますが、それは間違いで、人的資源がとて豊かだと思います。た

**澁澤** でも、政治レベルでの国策があてにならないなら、まず各個でやらないとイケませんよ。

**奥谷** そう、若い人たちも、国や政治に頼らないで自分でやっていかなきゃあ、と言っていますよ。そういうところは、しっかりしてるなと思います。

**澁澤** 日本の今の状況において、3・11（東日本大震災）というのはどのような影響を及ぼしていると思われませんか。震災を切っ掛けに日本は変わるのかなと思っていました。今になってみると、何も変わっていないように思えるのですが。

**奥谷** 何にも変わっていませんね。阪神・淡路大震災の時も、あの災害を契機にこの国が変わるだろうと思っていました。変わっていませんでした。全く同じ現象ですね。何も変わりませんでしたね。

震災直後こそは、マスコミ報道に煽られるように、ボランティアが競って現地に赴いたりしましたが、今となってみれば、かなり行く人が少ないという。……この国は、というかこの国の人々は、イベント

が好きなのでしょうかね。イベントに参加することで、自分の価値観を見出そうという。永続して本当の意味でのボランティアに参加しようという気はないうちです。

**澁澤** イベントというか、お祭りが日本人は好きじゃあないですか。お祭りというのは、山から神を招き寄せて祀る、イベントのようなですね。日本人の信教観というのは、神様オンデイマンド（奉請）なんです。われわれは神社に礼拝する（らいはい）というよりも、チャリン、ガラガラ、ポンポン（拍手）。そして、神様思召しなら御来駕下さいと奉祀する。我々は大陸的な農耕民族ではなく水の豊かな農耕民族であって、悪疫もなにもかもやがて水にすずがれて流れてしまう。日本人の気風もこういうところに起因しているのかも知れませんね。四季折々の食も豊かだし。

**奥谷** そうですね。日本人特異の「まったり」というか、固執しない気質は、地形的な豊潤な自然の恩

しょうね。言語の問題もありますが、日本人同士が固まったり、日本人村を作ってしまうとか。

**澁澤** コミュニケーションの「ツボ」というのは何ですか。

**奥谷** 自分からオープンにすること。オープンにしないことには人は寄って来ませんからね。

個人もそうですが、国も開かれた施策を、今後採らないと駄目だと思いますよ。外国人労働者を受け入れるということも、一つの政策として重要だと思いますね。日本は今後人口が減ってゆくことだし、高齢社会もあるし。今後女性の出生率を高めることが出来たとしても、何十年かの間隙を、移民受容政策を採ってでも埋めてゆくしかないと思いますね。介護の問題もそうだし……。

**澁澤** 医療現場にしても、外国人看護師に道を開いたといいながら、逆にハードルを高くしていますからね。欧米の病院などは、外国人看護師が実に多いですよ。

恵を受けているということでしょうね。

**澁澤** 日本の文化の繊細さも、この「まったり」から出てきている部分もあるとすると、総てが悪いということではないですよ。

**奥谷** そう、鎖国の三百年も含めて、特異な地形、気候風土で培われたものでしょうね。そうした良いものを掘り起こして伝えてゆくことをするべきでしょうね。

**澁澤** 枠の外というか、海外に出て思うのは、東ヨーロッパとか思いも懸けないところで、日本への高い評価、賛辞に出合うことがありますね。そのことが日本への期待に繋がっているのですが、それに応えられていきますかね。

**奥谷** 日本鼻貞というか、期待は大きいのでしょうか、それに充分応えられていないというのが現状でしょうね。

**澁澤** それは謙虚さですか。または面倒だから。（笑）  
**奥谷** コミュニケーションを取るのが下手なので

**奥谷** アメリカでは、一つのオフィスに何か国もの人たちが一緒に働いていて、それが日常ですからね。日本は特異な伝統文化を持った国なのだから、自己の確立さえ出来ていけば、どんなに多くの外国人労働者、移民を受け入れても問題はない筈ですよ。それが当たり前ということになると、日本も変わるんじゃないかと思えますよ。

### 失敗しても正面から乗り越える

**澁澤** 奥谷さんのように自己の確立が出来た人が何か主張される場合、周りから異論を招くこともあると思いますが、そのことにご意見はありますか。

**奥谷** いろいろな考えがあるということ、なかなか認められないということですよ。例えば、このことについては共通の認識でこの様に「ということに対して、私が「それはおかしい」と思って主張すると、周りが叩いてしまう。だから「おかしい」と言うこと自体を他の人は控えてしまうことになる、



周りに和して(笑)。

**澁澤** それは、謂うところの「ムラ社会」ということですか。

**奥谷** 「ムラ社会」ですね。でも、自分の主張が正しいと思えば、叩かれようが何されようが、自分の主義主張は通そうとしますよね。そうでないと、生きている意味がないもの。

**澁澤** 主義を通す人と、通さない人の違いは何なのでしょうね。

**奥谷** 信念があるかないかでしょう。やはり、自分が今日まで生きて来て、思考というか、自分が一番正しいと思っているものを蓄積させてゆくと、「この道が一番いいんだ」という一つの信念が出来てくると思いますよ。

**澁澤** 自分の道として外せないということなのでしようかね。その道を見つけるプロセスというところ、どのようなことになりますか。

**奥谷** それは、諸々でしょうが、親の教育だったり、

ス上げろ」です。お客さん来ないのに、年中ストライキをしてるので、私は「ストライキ反対」という立場から、乗務員の第二組合を作ろうとしたんです。従来の組合を抜けて、第二組合を作りました。その時、スチュワーデスでは私一人でしたね。そうした時、物凄く叩かれましたよ。

みんながストライキ中に、私一人乗務するのです。すると「会社から幾らもらったんだ」「白状しろ」と言われ通しですよ。到着地に着いても私だけ食事も一人。でも、そうなると余計ファイトが湧いてくるんですよ。悪いことをしているのじゃあない、信念の問題ですから、全然怖くなかった。

**澁澤** じゃあ、怖いものはありますか。毛虫でもいいですけど。(笑)

**奥谷** 蛇。……ゴルフしてる時など、蛇に出くわすと、もうダメ。悲鳴を發して、遠回りしちゃう。(笑)

**澁澤** 奥谷さんに怖いものがあった、よかった(笑)。今日は、メッセージを沢山いただきました。なん

友人の影響があるでしょうし、先生の教えもあるでしょうし、やはり巡り逢った人の影響でしょうね。……紆余曲折して、失敗もあるでしょうしね。

**澁澤** 奥谷さんは失敗の時はどうされます。

**奥谷** 私は失敗の連続なのですが、要は、失敗しても「ごめんなさい」ではなくて、乗り越えるということですね。……引き下がるのではなくて、一応謝って、信念は曲げるつもりはないから、正面からジャンプして越えちゃう……(笑)。

**澁澤** ジャンプ出来なかった大きい障壁というのは。  
**奥谷** ない。……叩かれれば叩かれるほど、強くなっちゃう(笑)。だから、余計おもしろくなって来るとです。

むかしJALに勤めていて、会社に入った時、この会社は潰れるな」と思いましたよ。なぜなら、オイルショックの後で、お客さんが全然来ない状況で、普通なら賃金カット、ボーナスカット、人員削減をするところです。それなのに、「賃金上げる、ボナ

か、勇気が出てきました。ありがとうございます。

(おくれたにれいこ/しおさわけん)

〔収録〕二〇一二年六月二十七日

